

## 切り花はぼたんの黄化対策技術

### 1 背景・目的

切り花はぼたんは、近年、流通段階で葉の黄化が発生し、問題となっている。その原因を明らかにするため、栽培期間中の施肥量と収穫後の保存温度が切り花はぼたんの品質保持に及ぼす影響を検討する。

### 2 技術のポイント

- (1) 流通段階における切り花はぼたんの黄化は、収穫後の温度が高いと発生しやすく、施肥量に関わらず低温で保存することで黄化を抑制できる(表、図)。
- (2) 十分量の窒素を与えて栽培することで、保存温度が高い場合に施肥量が少ないものと比較して、黄化を抑制できる(表、図)。

表 施肥量および保存温度がはぼたんの品質保持に及ぼす影響

試験区	保存温度 (°C)	保存6日後の黄化枚数(枚/株)	葉色 (SPAD値)	
			保存開始時	保存6日後
1.0倍	10	0.2 c <sup>z</sup>	45.5 a <sup>y</sup>	37.9 a
	15	0.8 c	44.0 a	32.6 ab
	20	4.2 ab	43.4 a	18.2 cd
0.7倍	10	0.0 c	42.5 a	35.0 ab
	15	2.2 bc	43.1 a	27.5 bc
	20	5.6 a	42.4 a	9.8 de
0.4倍	10	0.0 c	43.2 a	35.2 ab
	15	1.2 c	43.2 a	29.1 ab
	20	5.6 a	39.7 a	5.0 e
分散分析				
	施肥量	ns <sup>y</sup>	ns <sup>y</sup>	**
	保存温度	**	ns	**
	交互作用	ns	ns	ns

z tukey の多重比較検定で、同一列において異なる英文字間に 5%水準で有意差があることを示す  
 y 分散分析により、\*\*は 1%水準で有意差があること、ns は有意差がないことを示す

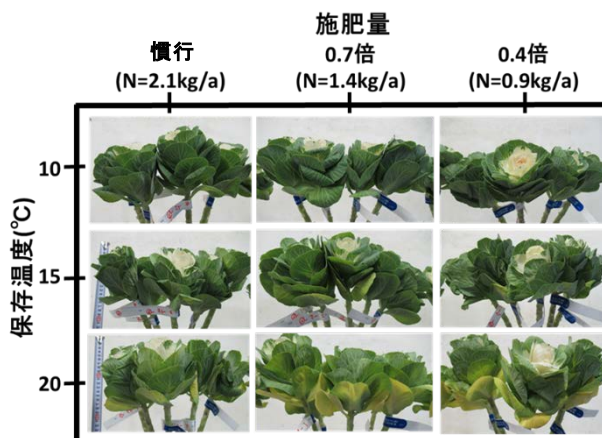


図 施肥量および保存温度がはぼたんの品質保持に及ぼす影響 (保存 6 日後の状態)

### 3 成果の活用と留意点

- (1) はぼたんの黄化を防ぐためには、砂土において、慣行の施肥量 (kg/a N : P : K=2.1 : 2.1 : 2.1) で、10°C以下の低温で保存する。
- (2) 施肥量が少ない場合の追肥のタイミング・量等について検討が必要である。